

# 倫理 研究課題 <西洋05>

教科書：p ~ 資料集：p ~ ノート：p ~

## ●モラリスト

16～17世紀（新旧両派の対立抗争の時代）に、「謙虚さ」について思索を深めた

### ①モンテーニュ（カトリック教徒）

新旧両派の対立抗争の背景にあるもの

＝独断・偏見・不寛容（⇔キリスト教の本来の精神＝例「マタイ伝」7章）

＝人間や自分自身に対する問いの欠如

→「ク・セ・ジュ（私は何を知っているか）？」（フランス語）

＝「私は何も知り得ていない」の反語（←ソクラテス）

＝自分自身に対する謙虚さ（相対化）（⇔自分を絶対化する不遜さ）

（例）「私が猫をあやすとき、猫も私を相手に暇つぶしをしている」（視点の転換）

＝一般に「正しい」と思われていることが本当に正しいのか、一度は疑うべき（懐疑論）

→そのことによって独断・偏見・不寛容を克服する努力をすべき

### ②パスカル（カトリック教徒）

人間は偉大（思考力）と悲惨（脆弱性）の中間者 →∴「人間は考える葦である」

思考力 { 幾何学的精神 科学的合理的思考力  
          ⇨ 理性を使って考察する力 ⇨ 証拠を挙げて論証する力  
          繊細の精神 愛をもって現象の背後にある真理を直観する力  
                          ⇨ 共感する力・想像する力 ⇨ 証拠のない真理を悟る力

★私たちが疑いもせずに「そうだ」と思い込んでいるようなことはないだろうか？

---

---

★「年間の自殺者が3万人」ニュースへの反応、幾何学的精神と繊細の精神の違いは？

---

---